

### 3. 回答結果と分析

#### (1) まとめと分析

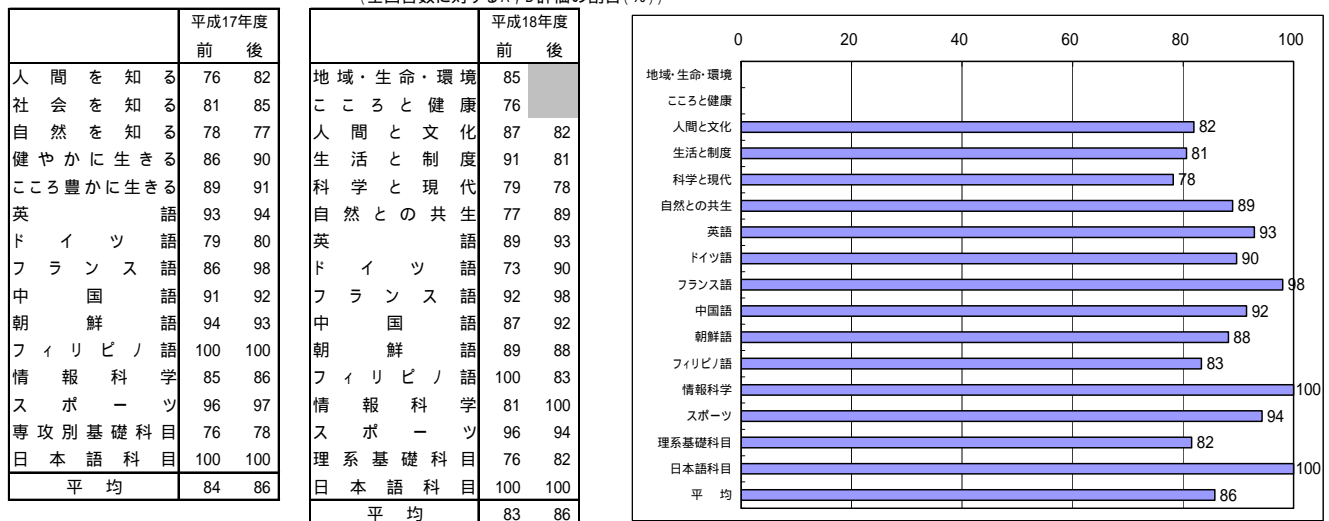
(2) 以下に示される平成18年度後学期の集計結果を、設問ごと4段階評価(「設問4\_授業のレベル」のみ5段階評価)において、肯定的評価を下した学生の割合を示し、科目別の傾向を分析する。

尚、本年度(平成18年度)にカリキュラムの変更があったため、正確な経年変化を見ることはできないが、参考に平成17年度の集計結果を掲載する。

#### 1) 「授業の内容に関する質問」に対する学生の自己評価

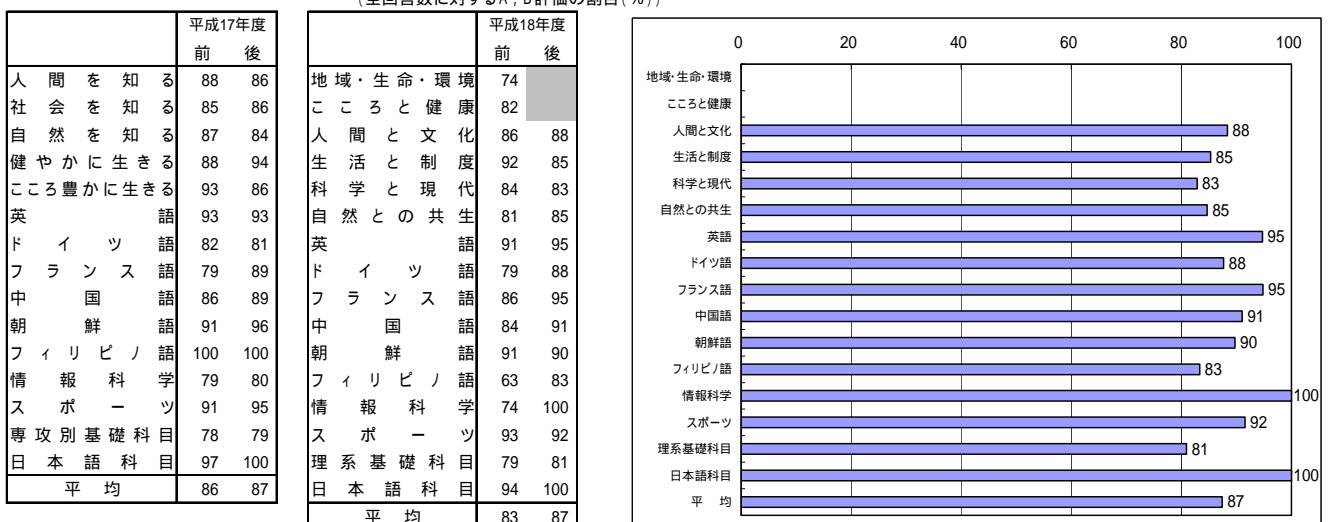
まず「目的・目標の理解」であるが、平均すると86%の学生が肯定的評価を行っており、概ね学生は授業の目的・目標を理解できていると判断できる。「情報科学」と「日本語科目」が100%、語学の「フランス語」が98%、授業の目的が明確な「スポーツ」が94%の高い肯定的評価を得ている。しかし「科学と現代」はやや低い数字となっている。目的・目標を理解できないまま、学習を継続することは学習効果が低くなるので、目的・目標を明示する取組が求められる。

表1 設問 1-1目的・目標の理解  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



次に「進度・時間配分」の適切さであるが、平均で87%の学生から肯定的評価を得た。すべての科目において80%を越える高い数値を得ている。この状態を維持する努力が必要であろう。

表2 設問 1-2進度・時間配分  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

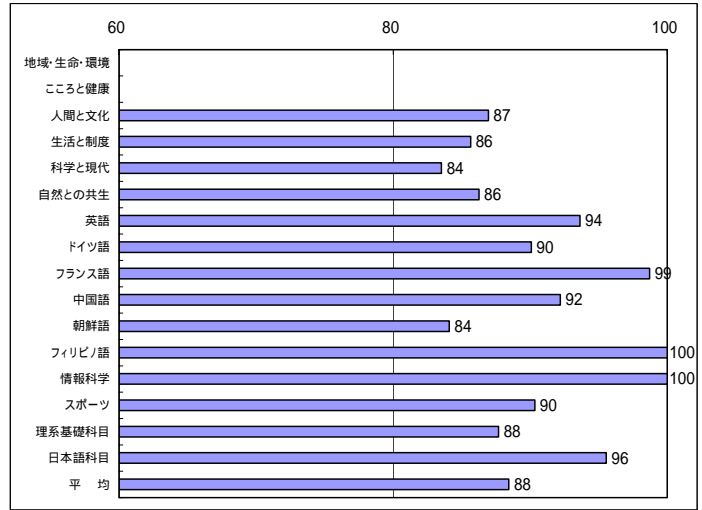


「シラバスどおりの授業」については、全科目平均で88%、科目別でもすべて80%を超えていて、肯定的な評価を得た。学生は、授業の進め方をシラバスから読み取り、その通り実践されていることが裏付けられたと判断できる。

表3 設問 1-3 シラバスどおりの授業  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	88	86
社会を知る	87	88
自然を知る	82	84
健やかに生きる	91	93
こころ豊かに生きる	91	90
英語	90	93
ドイツ語	80	80
フランス語	86	92
中国語	88	90
朝鮮語	95	94
フィリピン語	100	100
情報科学	89	88
スポーツ	91	94
専攻別基礎科目	83	85
日本語科目	100	100
平均	87	88

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	88	
こころと健康	88	
人間と文化	91	87
生活と制度	92	86
科学と現代	84	84
自然との共生	86	86
英語	90	94
ドイツ語	77	90
フランス語	94	99
中国語	84	92
朝鮮語	94	84
フィリピン語	63	100
情報科学	86	100
スポーツ	89	90
理系基礎科目	85	88
日本語科目	97	96
平均	87	88



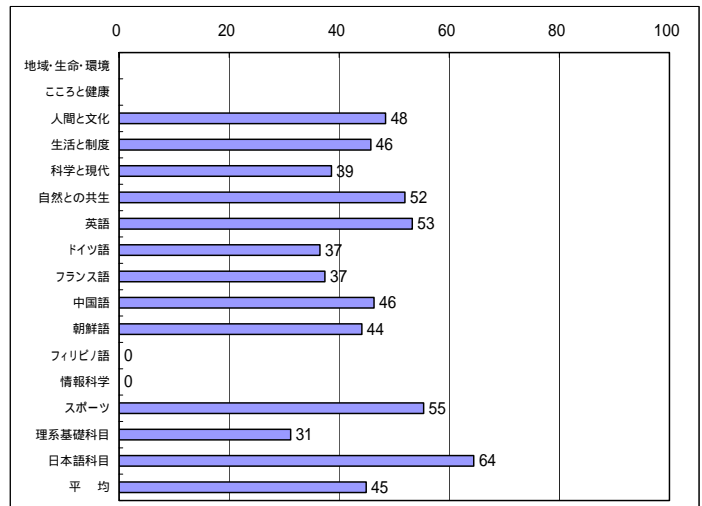
「レベル」については、選択肢が5択（他は4択）であるため、『ちょうどよい』と回答した学生の割合を示している。全科目平均で45%しか肯定的な回答を得られず、前学期の数値を1ポイント下回った。半数以上の学生がレベルの適切さを感じていないということになる。数値の低い「科学と現代」「ドイツ語」「フランス語」「フィリピン語」「情報科学」「理系基礎科目」については、その意味を解釈するより深いデータ収集を行い、レベルの再設定などを検討すべきである。とりわけ評価の低い「理系基礎科目」は至急検討が必要である。尚、「フィリピン語」「情報科学」の評価が0%なのは、開講科目数や受講生数が少ないことが関係していると思われる。

授業内容のレベルの評価が落ち込む要因は、学生の学習背景の多様化、大学における授業スタイルの未習熟、わかりやすさの欠如など様々な要因が複合的に絡むことが多い。そのため、授業内容のレベルは学生と教員のコミュニケーションにより臨機応変に対応することが求められる。

表4 設問 1-4 レベル  
(全回答数に対するC評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	40	45
社会を知る	46	49
自然を知る	43	43
健やかに生きる	48	52
こころ豊かに生きる	59	55
英語	51	55
ドイツ語	37	42
フランス語	31	35
中国語	45	44
朝鮮語	55	52
フィリピン語	20	40
情報科学	41	52
スポーツ	54	56
専攻別基礎科目	30	32
日本語科目	72	75
平均	43	46

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	56	
こころと健康	43	
人間と文化	49	48
生活と制度	54	46
科学と現代	41	39
自然との共生	50	52
英語	51	53
ドイツ語	33	37
フランス語	34	37
中国語	49	46
朝鮮語	56	44
フィリピン語	0	0
情報科学	39	0
スポーツ	60	55
理系基礎科目	35	31
日本語科目	54	64
平均	46	45



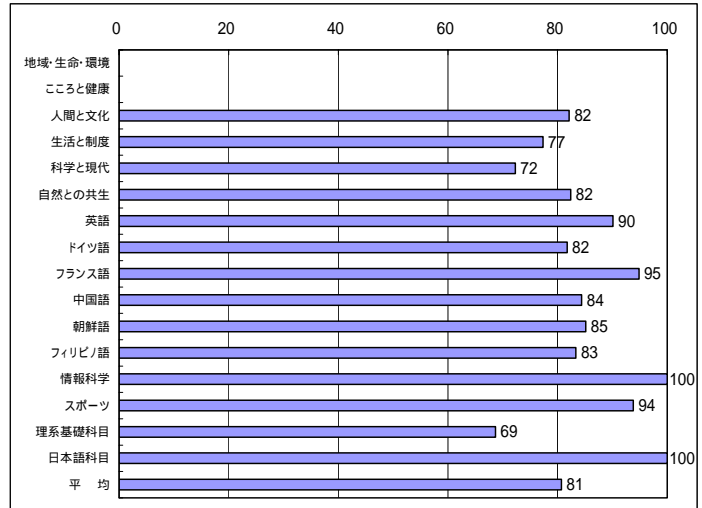
2) 「授業担当者の授業方法に関する質問」に対する学生の評価

まず「わかりやすさ」についてであるが、全科目平均では81%の肯定的評価を得るものの、「科学と現代」「理系基礎科目」において数値が低くなっている。わかりやすさに影響を及ぼす要因は大きく2つあり、授業内容そのものの難易度が高い場合と、授業における教授方法(テクニック等)に起因する場合が考えられる。この2つの科目は「レベル」についても、低い評価を受けており、教授方法とあわせて見直しをする必要がある。

表5 設問 2-1 わかりやすさ  
(全回答数に対するA,B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	72	75
社会を知る	80	82
自然を知る	76	75
健やかに生きる	80	85
こころ豊かに生きる	88	85
英語	89	91
ドイツ語	67	71
フランス語	76	89
中国語	86	88
朝鮮語	92	94
フィリピン語	100	100
情報科学	66	72
スポーツ	92	95
専攻別基礎科目	65	67
日本語科目	100	100
平均	78	80

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	80	
こころと健康	70	
人間と文化	82	82
生活と制度	91	77
科学と現代	77	72
自然との共生	71	82
英語	86	90
ドイツ語	61	82
フランス語	80	95
中国語	80	84
朝鮮語	88	85
フィリピン語	88	83
情報科学	65	100
スポーツ	92	94
理系基礎科目	65	69
日本語科目	97	100
平均	76	81

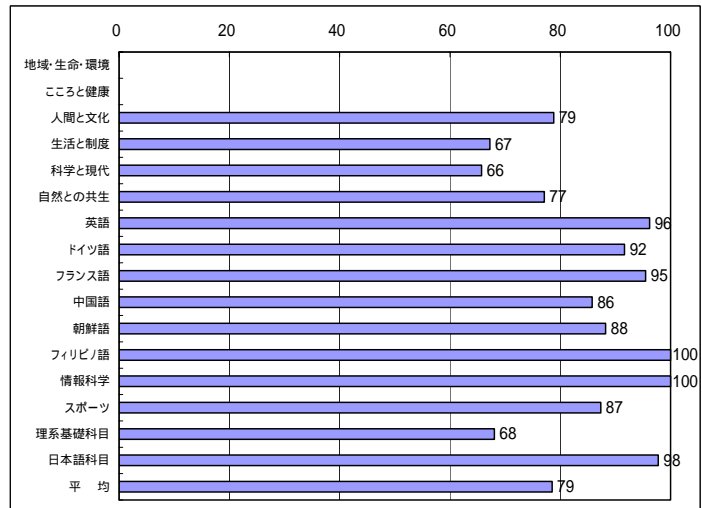


「コミュニケーション」については、全科目平均の肯定的評価が79%であり、「生活と制度」「科学と現代」の値が低くなっている。これらの科目は、従来知識提供型の授業スタイルが中心であった内容であるが、そういった内容であっても、学生のコミュニケーション能力の向上が社会的要請として求められていることから、授業における教員と学生両者のコミュニケーションを挿入することは可能であろう。FD等でその手法を学習する必要がある。

表6 設問 2-2 コミュニケーション  
(全回答数に対するA,B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	61	72
社会を知る	68	71
自然を知る	64	66
健やかに生きる	51	68
こころ豊かに生きる	76	76
英語	96	97
ドイツ語	78	81
フランス語	78	96
中国語	83	86
朝鮮語	91	89
フィリピン語	100	100
情報科学	69	66
スポーツ	87	91
専攻別基礎科目	69	66
日本語科目	100	100
平均	75	77

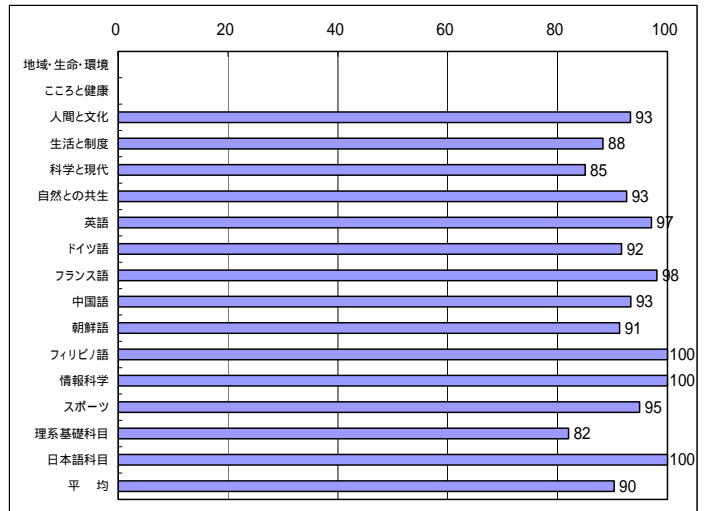
	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	67	
こころと健康	53	
人間と文化	80	79
生活と制度	69	67
科学と現代	62	66
自然との共生	68	77
英語	94	96
ドイツ語	79	92
フランス語	88	95
中国語	77	86
朝鮮語	91	88
フィリピン語	100	100
情報科学	57	100
スポーツ	85	87
理系基礎科目	68	68
日本語科目	94	98
平均	74	79



「教員の意欲・熱意」については、全科目平均の肯定的評価が90%であり、高い数値を得ている。教員の「熱意」は学生に伝わってこそ教育効果につながるものであり、この評価がさらに伸びるよう期待したい。「理系基礎科目」はやや低調であり、部会での検討が必要であろう。

表7 設問 2-3 教員の意欲・熱意  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

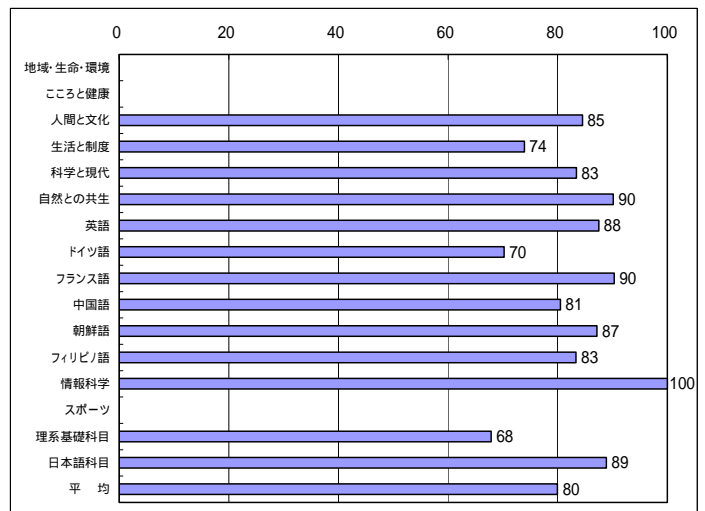
	平成17年度			平成18年度	
	前	後		前	後
人間を知る	87	94	地域・生命・環境	89	
社会を知る	89	90	こころと健康	83	
自然を知る	86	83	人間と文化	96	93
健やかに生きる	87	92	生活と制度	92	88
こころ豊かに生きる	94	91	科学と現代	86	85
英語	97	97	自然との共生	86	93
ドイツ語	85	80	英語	96	97
フランス語	88	96	ドイツ語	84	92
中国語	94	94	フランス語	91	98
朝鮮語	96	96	中国語	90	93
フィリピン語	100	100	朝鮮語	93	91
情報科学	74	78	フィリピン語	100	100
スポーツ	96	97	情報科学	72	100
専攻別基礎科目	80	80	スポーツ	96	95
日本語科目	100	100	理系基礎科目	79	82
平均	88	89	日本語科目	100	100
			平均	87	90



「視聴覚教材」は、学生の理解を促すため、教授手法としてビデオ・コンピュータ機材を効果的に利用していることを確認する指標であり、全科目平均では80%の肯定的評価を得た。科目特性により視聴覚教材の使用の意味に差異があるので、必ずしもこの数値が授業の質を表現するものとはならないが、学生の理解を促す有効な教材であることには間違いのないので、積極的に使用すべきであろう。

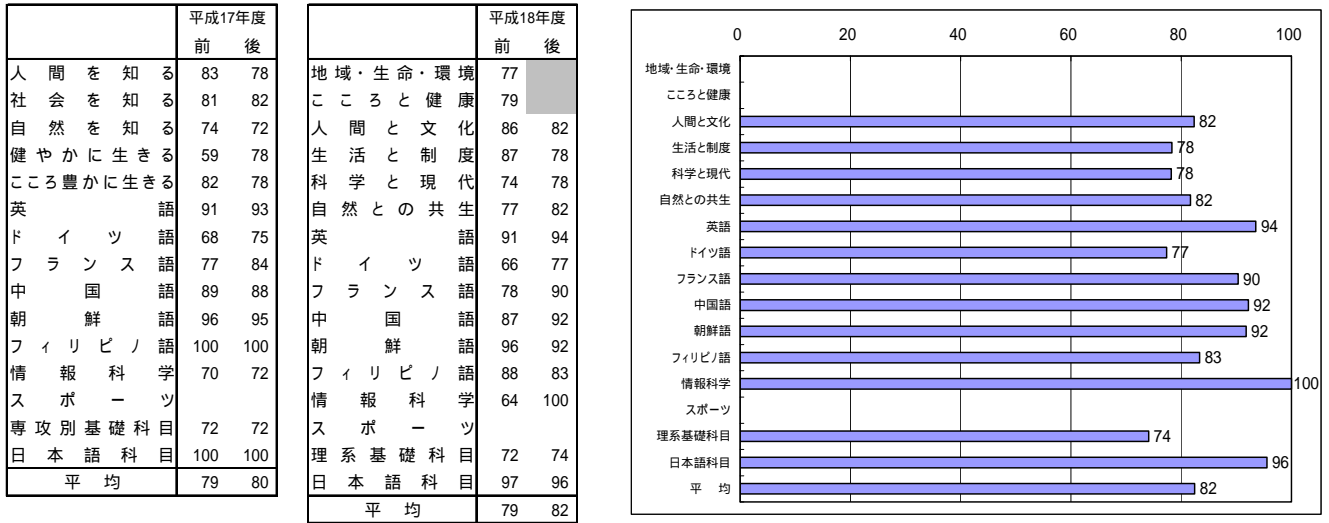
表8 設問 2-4 視聴覚教材  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度			平成18年度	
	前	後		前	後
人間を知る	79	76	地域・生命・環境	87	
社会を知る	68	72	こころと健康	80	
自然を知る	84	76	人間と文化	84	85
健やかに生きる	64	76	生活と制度	85	74
こころ豊かに生きる	89	92	科学と現代	79	83
英語	86	88	自然との共生	82	90
ドイツ語	61	67	英語	84	88
フランス語	71	86	ドイツ語	58	70
中国語	68	69	フランス語	77	90
朝鮮語	94	92	中国語	70	81
フィリピン語	100	100	朝鮮語	91	87
情報科学	84	81	フィリピン語	50	83
スポーツ			情報科学	85	100
専攻別基礎科目	64	67	スポーツ		
日本語科目	97	100	理系基礎科目	65	68
平均	76	77	日本語科目	100	89
			平均	77	80



「教科書・プリント」については、全科目平均の肯定的評価が82%であった。学生から自由記入欄で指摘される問題の中に、シラバスに教科書を指定した場合は必ず授業中で使用し、その価値を説明して欲しいという要望が数多く寄せられる。このコメントを真摯に受け止め、シラバスに記載する内容に対して今後もきちんとした説明が求められることを認識すべきであろう。

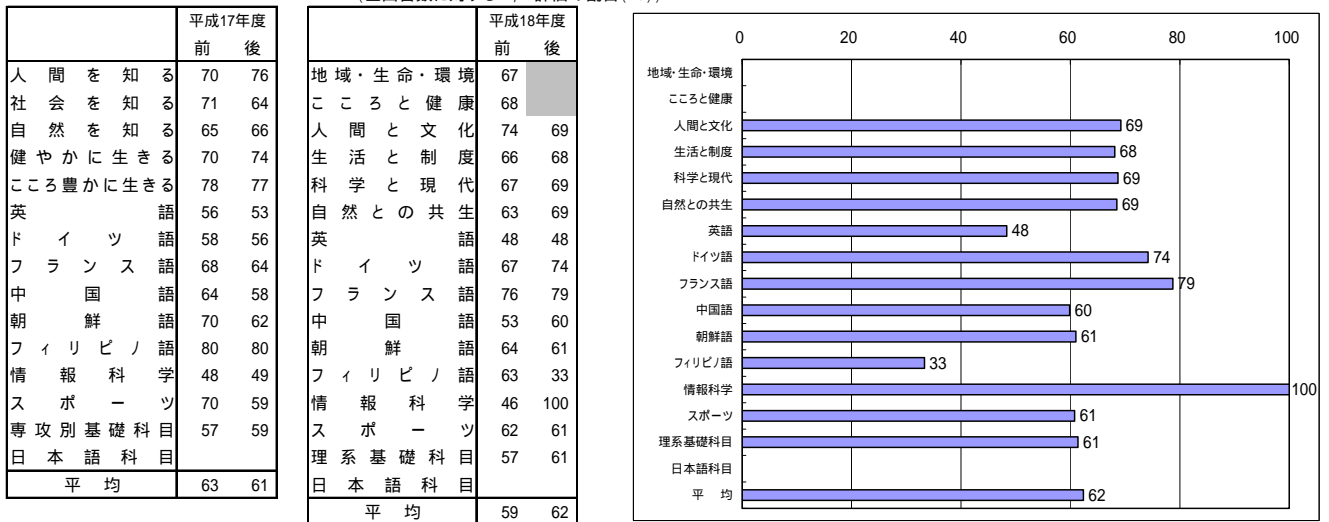
表9 設問 2-5 教科書・プリント  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



### 3) 「あなた自身に関する質問」に関する学生の自己評価

「シラバス」は、全科目平均で62%の肯定的評価であった。ということは、約4割の学生はシラバスをほとんど読まずに受講していることとなる。シラバスを読むことで、学習内容を大まかにつかむことは学習効果を高めることに繋がることをガイダンス等で周知したい。

表10 設問 3-1 シラバス  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

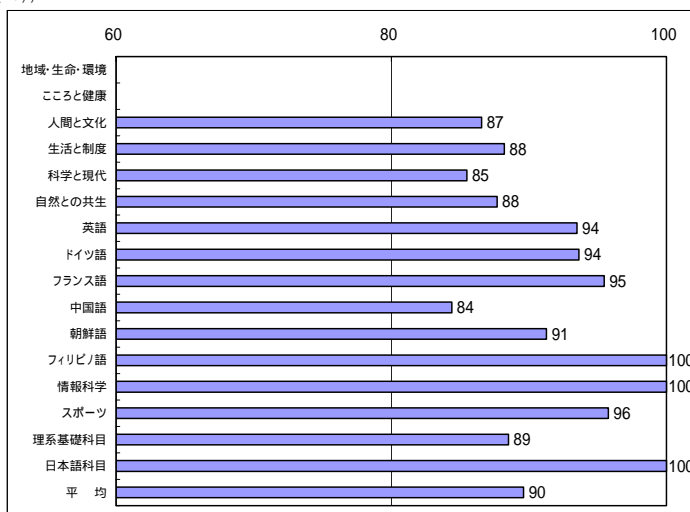


「出席状況」は全科目平均で90%であり、大半において90%の肯定的評価を得ている。単位の認定の前提条件として3分の2以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。

表11 設問 3-2 出席状況  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	89	79
社会を知る	88	86
自然を知る	88	88
健康やかに生きる	88	85
こころ豊かに生きる	90	87
英語	95	95
ドイツ語	91	85
フランス語	92	95
中国語	93	85
朝鮮語	92	89
フィリピン語	80	60
情報科学	95	96
スポーツ	96	97
専攻別基礎科目	92	92
日本語科目	100	100
平均	92	90

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	86	
こころと健康	87	
人間と文化	90	87
生活と制度	86	88
科学と現代	89	85
自然との共生	90	88
英語	93	94
ドイツ語	93	94
フランス語	96	95
中国語	90	84
朝鮮語	90	91
フィリピン語	100	100
情報科学	91	100
スポーツ	95	96
理系基礎科目	91	89
日本語科目	94	100
平均	91	90

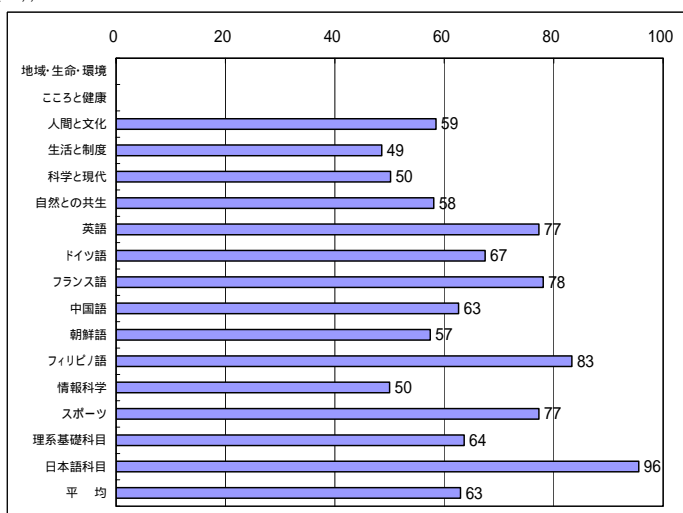


「学習態度」については、全科目の肯定的評価は63%であった。特に「生活と制度」「科学と現代」の主題科目群、「情報科学」が40%~50%の下位台になっており、積極的に授業に臨んでいるとは言い難い状況にある。

表12 設問 3-3 学習態度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	45	49
社会を知る	47	48
自然を知る	50	53
健康やかに生きる	44	50
こころ豊かに生きる	50	56
英語	76	78
ドイツ語	65	60
フランス語	62	75
中国語	63	60
朝鮮語	60	67
フィリピン語	100	100
情報科学	60	56
スポーツ	82	84
専攻別基礎科目	61	62
日本語科目	94	92
平均	60	62

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	51	
こころと健康	43	
人間と文化	59	59
生活と制度	51	49
科学と現代	52	50
自然との共生	50	58
英語	74	77
ドイツ語	57	67
フランス語	71	78
中国語	58	63
朝鮮語	61	57
フィリピン語	63	83
情報科学	46	50
スポーツ	77	77
理系基礎科目	59	64
日本語科目	100	96
平均	59	63



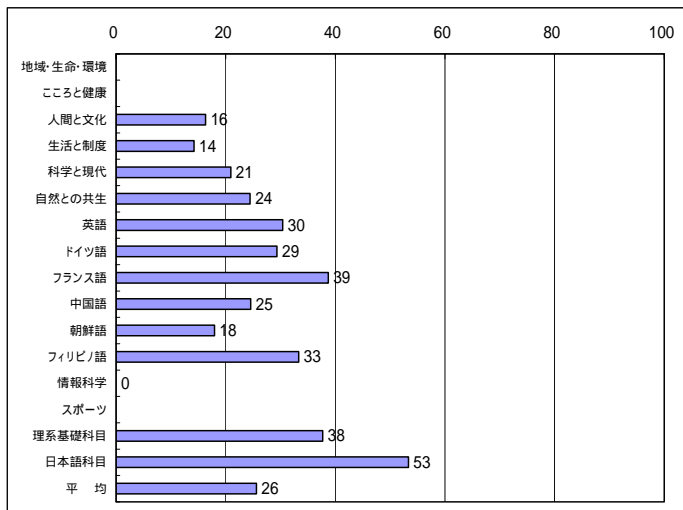


「授業時間外学習」についてだが、1回の授業毎に1時間以上授業時間外学習を行っていた学生の比率は、全科目平均で26%であった。現行の単位制度では、1単位は 教員が教室等で授業を行う時間及び 学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間、の合計で標準45時間の学修を要する教育内容を持って構成されている。そのため、授業時間外学習の取り組みが低いことは問題である。そんな中で、50%以上の学生が1時間以上の授業時間外学習をしている「日本語」について、どのような課題を出しているのが深い調査の実施が必要である。

表13 設問 3-4 授業時間外学習  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	14	11
社会を知る	16	13
自然を知る	19	18
健やかに生きる	8	16
こころ豊かに生きる	14	16
英語	26	25
ドイツ語	23	24
フランス語	32	29
中国語	29	28
朝鮮語	21	16
フィリピン語	60	80
情報科学	15	10
スポーツ		
専攻別基礎科目	35	38
日本語科目	61	67
平均	23	23

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	15	
こころと健康	14	
人間と文化	16	16
生活と制度	15	14
科学と現代	15	21
自然との共生	10	24
英語	27	30
ドイツ語	19	29
フランス語	38	39
中国語	23	25
朝鮮語	19	18
フィリピン語	0	33
情報科学	11	0
スポーツ		
理系基礎科目	31	38
日本語科目	51	53
平均	21	26



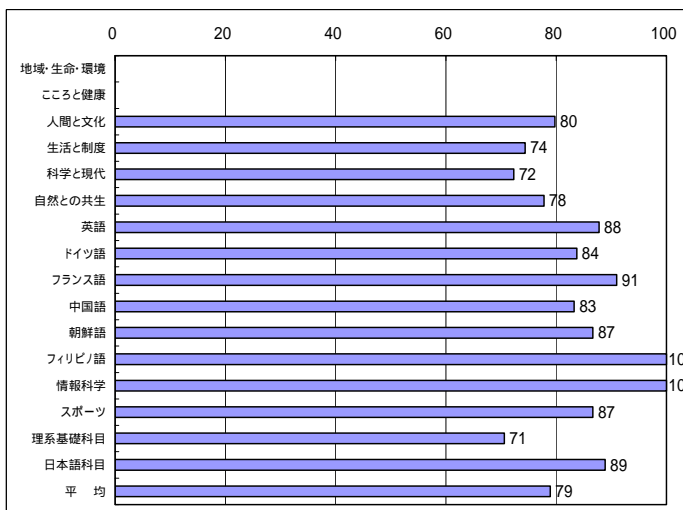
#### 4) 「授業全体に対する質問」に関する学生の評価

「授業改善度」についてだが、学生の意見を取り入れるなどして授業を改善する努力に対し、科目全体で79%の学生から肯定的評価を得た。ミニッツペーパーや授業中のコミュニケーションによって学生から問題点を引き出し、教員がどのように問題点を認識し、改善に向けて対処するかということ、学生に伝えることが必要であろう。学生からすれば当該授業との出会いは一期一会の機会であることからすると、改善への意欲が彼ら・彼女らに伝わるよう工夫することは、教員としての責務であろう。

表14 設問 4-1 改善度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	66	75
社会を知る	73	76
自然を知る	69	71
健やかに生きる	59	76
こころ豊かに生きる	76	77
英語	86	88
ドイツ語	65	68
フランス語	73	85
中国語	73	81
朝鮮語	89	88
フィリピン語	100	100
情報科学	60	68
スポーツ	86	91
専攻別基礎科目	67	68
日本語科目	100	92
平均	73	77

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	73	
こころと健康	65	
人間と文化	84	80
生活と制度	79	74
科学と現代	68	72
自然との共生	72	78
英語	84	88
ドイツ語	61	84
フランス語	78	91
中国語	69	83
朝鮮語	85	87
フィリピン語	88	100
情報科学	57	100
スポーツ	85	87
理系基礎科目	69	71
日本語科目	86	89
平均	73	79



「目的・目標達成度」は授業に対する目的・目標の達成度を質問しており、全科目平均では84%、全ての科目で70%の上位を超える肯定的評価となった。特に「フィリピン語」「情報科学」「日本語科目」は高い評価となっている。

授業全体としての「満足度」も科目間のばらつきもなく、すべての科目で70%を超える肯定的評価を得ている。

共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけないが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。目的・目標達成度や満足度の向上の為に、カリキュラムの面からも問題がないか、絶え間なく検証する必要がある。

表15 設問 4-2 目的・目標達成度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	78	80
社会を知る	81	81
自然を知る	78	77
健やかに生きる	82	90
こころ豊かに生きる	88	89
英語	90	92
ドイツ語	76	79
フランス語	78	92
中国語	87	87
朝鮮語	93	88
フィリピン語	100	100
情報科学	81	81
スポーツ	94	97
専攻別基礎科目	75	76
日本語科目	100	100
平均	82	84

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	83	
こころと健康	75	
人間と文化	86	83
生活と制度	89	79
科学と現代	77	77
自然との共生	75	86
英語	86	90
ドイツ語	71	87
フランス語	83	95
中国語	81	89
朝鮮語	87	85
フィリピン語	88	100
情報科学	77	100
スポーツ	95	93
理系基礎科目	75	78
日本語科目	100	100
平均	81	84

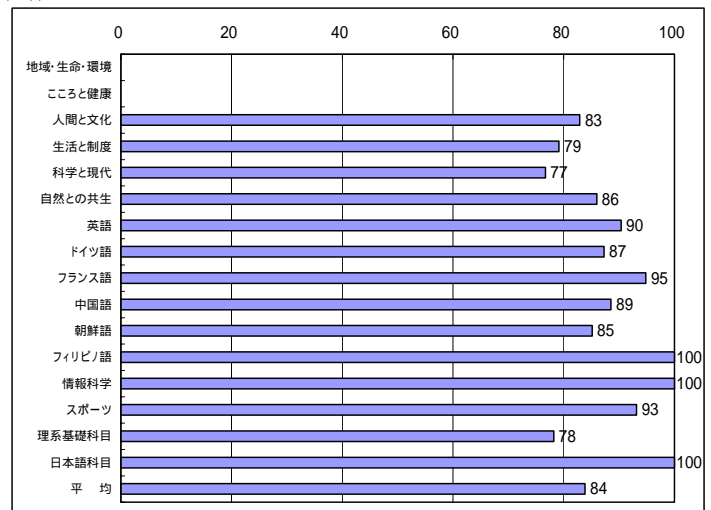


表16 設問 4-3 満足度  
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	74	78
社会を知る	78	77
自然を知る	75	74
健やかに生きる	84	86
こころ豊かに生きる	88	88
英語	90	91
ドイツ語	74	74
フランス語	78	90
中国語	86	87
朝鮮語	92	90
フィリピン語	100	100
情報科学	75	75
スポーツ	93	96
専攻別基礎科目	70	71
日本語科目	100	100
平均	80	81

	平成18年度	
	前	後
地域・生命・環境	81	
こころと健康	73	
人間と文化	83	81
生活と制度	88	76
科学と現代	76	73
自然との共生	72	83
英語	86	90
ドイツ語	68	84
フランス語	84	95
中国語	81	89
朝鮮語	89	83
フィリピン語	88	83
情報科学	73	100
スポーツ	94	93
理系基礎科目	70	73
日本語科目	89	100
平均	79	81

